

「第3回アドバイザー会議」における補足説明(再質疑)

調書番号: 6 事業名: U・Iターン就職促進事業費

補足説明

説明者職・氏名	説明内容
上野課長	<p>山梨県の労働市場の動き H27年度 1年間の有効求人倍率の平均は1.0倍。 H28年度 1年間の有効求人倍率の平均は1.23倍。 H29年7月の有効求人倍率は1.38倍と、上がってきている。 労働市場の人手不足感が強くなっている。県外での就職支援の拠点であるやまなし暮らし支援センターの役割が大きくなっている。</p> <p>相談件数の推移について 就職フェアに人が集まりにくいと、出張相談や、やまなし暮らし支援センターへ相談に訪れる学生を増やす取組を昨年より行っている。学生に口コミで情報が広がり、少しずつ相談人数が増えてきている。 就職フェア等を除く4月～7月の相談件数は、H28が81人だったのに対し、H29は、7月末時点で164人となっている。就職フェアで集まりにくい学生や一般の方を支援しており、就職相談員の役割も増加している</p>

再質疑

アドバイザー	質問内容	回答者職・氏名	回答内容
小口アドバイザー 五味アドバイザー 諸平アドバイザー	なし		

「第3回アドバイザー会議」における評価区分及び評価内容

調書番号: 6 事業名: U・Iターン就職促進事業費

アドバイザー	評価区分	評価内容
諸平アドバイザー	「要改善」	<p>「やまなしU・Iターン就職フェア」の求職者の参加人数が少ない。企業側が期待する成果が得られておらず、コストの割に効果が出ていない。新卒者に行われている取り組みだけでなく、Iターン希望の方へ、田舎暮らしお試し体験施設や空き家バンクの紹介、やまなし暮らし支援センターへの案内・取り次ぎなど、オール山梨で連携して移住者を迎える取組を引き続き実施していく必要がある。</p> <p>また、第二新卒のU・Iターン検討者へのコンタクト方法を検討して欲しい。</p>
小口アドバイザー	「要改善」	<p>売り手市場が続く中、成果を上げるための努力を色々行っている。中小企業の人手不足がますます深刻となっている中で、民間ではなく、行政として何が出来るかという観点から事業の見直しを図る必要がある。</p> <p>規模が小さく、資金に余裕が無い企業の中でも魅力のある企業はたくさんある。まずはその企業を発掘し、就職ガイダンスへの参加を促進する。行政として力を発揮するため、産業労働部全体、商工関係機関から情報を集め、それらの力を活用するよう検討して欲しい。</p> <p>民間の就職ガイダンスとの違いを学生や学校にアピールするため、「あなたの知らない魅力ある企業が集まっている」等民間とは違うことを行っている事をアピールする。イベントや色々な窓口と連携を強化して全体としての力を発揮して欲しい。</p> <p>また、第二新卒へのアプローチを重点的に取り組んで欲しい。</p>
五味アドバイザー	「要改善」	<p>多額の費用を必要とする民間の就職ガイダンスに参加できない中小企業に機会を提供できる就職フェアは、非常に大切な事業である。</p> <p>企業側アンケートによると、参加者数が少ないことが度々挙げられていた。具体的な周知の方法を挙げている回答もあった。アンケートを参考に、開催方法や場所などに修正を加え、更に効果のあるガイダンスにして欲しい。</p>